

目指す学校像	児童・教職員・家庭・地域が共に育つ楽しい学校
--------	------------------------

重点目標	1 生徒指導・道徳教育の充実、人間関係づくり 2 魅力ある学級経営・学ぶ力をつける授業の創造 3 安全教育の充実・安全管理の徹底、健康教育の推進・健康管理の徹底 4 地域に開かれた教育活動 5 教職員の研修と協働
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標								実施日令和6年2月7日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	全校児童99名の小規模校で、全学年単学級の学校であるため、卒業まで同じクラスメイトとのかかわり合いになる。お互いのことを分かり合える半面、一度人間関係が崩れると、その後の学校生活に大きな影響を与える。 また、自学級以外のかかわりは、すべて異学年交流となることから、学年の枠を超えたつながりを造ることができている。 ただ、多様な考えに触れる機会が少なく、一度作られた人間関係からの脱却も困難である。	一人ひとりのよさを認め合う、豊かな人間関係づくり いじめや長欠のない学校づくり 清掃や掲示物の工夫による学習環境の整備	・お互いのよさを実感できるよう、人間関係プログラムやG・Sの授業を中心に、他者とのコミュニケーション活動を取り入れる。 ・「いじめほどの学校でも起こりうる」という考えのもと、毎月の生徒指導委員会や簡易アンケート等を用いて、実態を把握する。 ・SCやSSWを効果的に活用し、教育相談体制を充実させる。 ・掲示計画のもと校内掲示を充実させる。また、掲示計画の見直しを図る。	・心と生活のアンケートで「スキルグラフ」「信頼感グラフ」共に右上方に分布。 ・学校評価の保護者アンケートにおいて「教育相談体制」に係る項目で、肯定的回答100%。 ・学校評価の教職員アンケートにおいて「生徒指導の充実」に係る項目で肯定的回答100%。 ・学校評価の保護者アンケートにおいて「施設・設備等落ち着いた環境づくり」の項目で肯定的回答100%。	・心と生活のアンケートにおいて、「スキルグラフ」「信頼感グラフ」ともに右上方へ分布している。特に5・6年生は学期を追うごとによくなっている。 ・保護者アンケートにおける「教育相談体制」に関する項目は、肯定的回答は100%であった。 ・教職員アンケートにおける「生徒指導の充実」に関する項目で肯定的回答は95%であった。 ・保護者アンケートにおいて「施設・設備等落ち着いた環境づくり」に関する項目で肯定的回答は100%であった。	A	・学校評価においても「学校に行くのが楽しい」と答えた児童は99%おり、人間関係もおおむね良好といえる。 ・いじめや長欠を未然に防ぐ取組をこれまで以上に充実させ、学校、保護者、地域がそれぞれの役割を果たせるように学校運営協議会等を通じて綿密に連携していく。	・保護者アンケートにおいて肯定的回答が100%と高いため、Aでよい。	
2	各学級15名程度であるため、担任は一人ひとりと向き合う時間も多く、少人数での指導が可能となるため、きめ細やかな指導ができています。 学力は市の平均よりも低い傾向にあり、その学年における基礎的・基本的な内容の定着が図られる指導、授業づくりが課題となっている。	児童が自己実現を重ね、自分の成長を具体的に把握し、自己肯定感を感じることができている教育活動の推進。 教科担任制を生かしたカリキュラムマネジメントの充実	・各教育活動を行う際に、児童に具体的な目標を設定させ、活動後には振り返りを行うようにする。 ・一人ひとりの学びの足跡を残すOPPシートを活用する。 ・高学年を中心に教科担任制を取り入れ、系統的で質の高い授業を行う。	・学校評価の児童アンケートにおいて「自分から進んで学習している」の肯定的回答95%以上。 ・学校評価の児童アンケートにおいて「学校で勉強したことが分かる」の肯定的回答100%。	・児童アンケートにおいて「自分から進んで学習している」の肯定的回答は97%であった。 ・児童アンケートにおいて「学校で勉強したことが分かる」の肯定的回答は98%であった。	A	・学校における学習意欲は高い数値だが、家庭での学習や読書活動に課題が見られるため、家庭等との連携を充実させる。 ・教科担任制をさらに充実させていく。	・児童アンケートにおいて肯定的回答が98%と高いため、Aでよい。	
3	全校児童が少なく、学区が広域であるため、遠いところでは、40分程度かかる地区もある。そのため、登下校での安全の確保が難しい。特に、低学年と高学年で下校時刻が違う日には、一緒に下校する児童が少なくなる傾向がある。 歯科治療率が昨年度大幅に改善が見られたが、継続して生活習慣を含めた保健指導を進める必要がある。 地域の農家の方からの協力があり、農業体験等は充実している。	基本的な生活習慣を身に付ける保健指導の充実 瑕疵による児童のけが防止の徹底 地場産の食材やヨーロッパ野菜の育成などを取り入れた食育の充実	・業前に月1回保健指導、生活朝会での指導を実施する。 ・保健だより等で情報提供し、家庭の協力を呼び掛ける。 ・学校保健委員会を年2回実施し、専門の講師による講演や日頃の保健指導についての協議を行う。 ・毎月の安全点検を確実に実施し、修繕箇所は速やかに修繕するなど、施設管理を徹底する。 ・ヨーロッパ野菜の育成を中心とした食育の研究を行う。 ・学校ファームを有効活用し、児童自らが野菜の育成に関わる機会をつくる。	・学校評価児童アンケート「川小よいこのやくそくを守って生活している」の肯定的回答100%。 ・瑕疵による児童のケガ、事故をゼロにする。 ・2年生はサツマイモ栽培 ・3～6年生はじゃがいもやヨーロッパ野菜の栽培 ・5年生は米の栽培などを実施する。	・児童アンケートにおいて「川小よいこのやくそくを守って生活している」の肯定的回答は95%であった。 ・瑕疵による児童のケガ・事故はゼロであった。 ・すべて計画通り実施できた。	A	・生活朝会、学級指導、保健指導等の充実により成果が出ている。児童が主体的に考えていくことができるよう児童会を中心に取組を充実させる。 ・点検結果をもとに速やかに対応できた。 ・担当者を中心に地域の生産者と連携しながら計画的に実施できたので、引き続き協力して進めていく。	・児童アンケートの肯定的回答95%、瑕疵による児童のケガや事故のゼロ、学校ファームの活用も計画通りと、すべてにおいて達成しているためAでよい。	
4	歴史ある学校であり、地域との関係も密である。学校の取組に協力的で、様々なボランティア活動が充実している。 地域の協力者の高齢化が進んでおり、新たな地域人材の確保が課題となっている。	学校・地域が共に育つコミュニティ・スクールの充実	・学校運営協議会において熟議を確実にし、あいさつ運動等の地域学校協働活動を実施し、学校経営に関する評価を得る。 ・学校ホームページを活用し、学校経営方針を掲載するなど、学校の情報を共有する。	・学校運営協議会の年3回の実施。 ・学校評価アンケートの「あいさつ」に関する項目で、肯定的回答100%。	・学校運営協議会は年3回実施できた。 ・「あいさつ」に関する項目で、肯定的回答は、児童アンケートは98%、保護者アンケートでは90%、教職員アンケートでは100%であった。	A	・挨拶については一定の成果が得られたので、次年度は新たにこの地域の魅力を伸ばすことができる課題を立て、学校運営協議会で熟議していく。	・川通地域の地域性の特色がある。中学校と小学校と一緒に地域と協力して進めていけばよい。評価項目を達成しているためAでよい。	
5	学校課題研修を中心に、各種研修を計画的に推進することができている。 教職員数が少ないため、一人ひとりが担当する校務分掌が多く、各部の部員も少ないため、充実した取組にすることが困難である。同時に働き方改革の観点からも、取組の精選を図ることも課題である。	ICTを活用し、主体的に学習に取り組む児童の育成 行事や会議の精選と校務分掌組織の見直しを図る。	・学習場面に応じてデジタル教材(デジタル教科書、スタディサプリ等)を効果的に活用する。 ・会議のペーパーレス化 ・目的の達成と実施による負担度を鑑みながら、より教育効果の高まる行事や校務となるよう精査する。	・児童が回答するよい授業のアンケートにおいて、「ICTの活用」の項目で肯定的回答100%。 ・毎週水曜日をノー会議デーとする。 ・学校評価「働き方改革(業務改善)」に関するアンケート肯定的回答90%以上	・今年度より、よい授業のアンケートが「学びの指標アンケート」に変更となったため、内容項目が少し異なるが、教職員平均85%であった。 ・水曜日に会議を設けることはなかった。 ・教職員アンケート「働き方改革(業務改善)」に関するアンケートで肯定的回答は91%であった。	A	・教職員が一人1回以上の研究授業を行い、ICTの活用を推進した。市が掲げる学びのポイント「じ・し・や・く」を基にさらに活用を進めていく。 ・教職員一人ひとりが「働き方改革」に関する目標と手立てを考え、ICTの活用を中心とした業務改善が進んできた。	・それぞれの評価項目を達成しているためAでよい。 ・急速なデジタル化において、児童だけでなく、教職員も一緒に勉強(研修)していったほしい。	